

第5学年1組 道徳学習指導案

指導者 川野邊 和

1 主題名 家族の一員として 4-(5) 家族愛

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目4-(5)は、「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて進んで役に立つことをする」ことをねらいとしている。高学年のこの時期においては、一層積極的に家庭生活にかかわり、家庭での自分の役割を自覚し、積極的に役に立とうとする態度を育てることが大切である。

家族としての愛情は、自然に生まれてくる場合がほとんどであるが、家族の一人一人が努力することによってより強く、深い結びつきを得ることができる。現在思春期の入り口に差しかかり、自我意識への芽生えから家族、とりわけ両親への反発心が生まれてくる時期ではあるが、同時に、見返りを期待しない、家族の無償の愛の存在に気づく時期でもある。そこで、児童一人一人に、家族の幸せのために自分は何ができるかを考えさせる機会としたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について(男子20人、女子13人、計33人)

本学級には、明るく素直で伸び伸びとした児童が多い。事前調査では9割の児童が「家族が好き」と答えている。また、およそ半数が尊敬する人物に「家族・親」を挙げており、家庭における良好な家族関係がうかがえる。しかし、家族のためにできることを具体的に心がけている児童は全体の半分程度で、およそ2割の児童は自ら進んで家族の一員としての役割を果たしてはいない現状が浮かび上がっている。

今回の学習を通して、子どもの成長や幸せを願う家族の思いに改めて気づかせるとともに、自らもまたその家族の一員であるという自覚を新たにさせ、家族のために積極的に貢献しようとする心構えを育てていこうと考えた。

○家族のことが好きですか。

・好き 23人 ・どちらかといえば好き 7人 ・あまり好きではない 3人

○家族の一員として心がけていることは何ですか。

・手伝いをする 19人 ・特に心がけていることはない 8人 ・その他 6人

(10月2日調べ)

(3) 資料について(資料名 「お磯下り」 出典 茨城県道徳教育用郷土資料)

本資料は、平安時代から現在まで続いている県内のある祭りを題材に、茨城県教育委員会が編集したものである。霜が降りるほど寒い初冬の早朝にもかかわらず、我が子を抱いて虫きりの神様にお参りをする母親たちの姿から、子どもの健やかな成長を願う世の母親たちの心情が伝わってくる、感動的な読み物資料である。

主人公である「私」は、弟とけんかをするたびに自分が母親から叱られ、何か割り切れない気持ちでいる。しかしある時、宮司から「お磯下り」の話を聞いたことにより、「はっ」として母親の深い愛情に気づく。その場面に焦点を当てて、本時のねらいに迫っていく。

3 関連

道徳の時間

9月 2-(5) 尊敬感謝 「おじいさんのあたたかな目」 心のノート P56	10月 4-(5) 家族愛 「お磯下り」 心のノート P94・95	11月 3-(2) 生命尊重 「命がないと始まらない」 心のノート P64・65
--	---	--

各教科

家庭 見つめよう家庭生活
総合 福祉体験学習

特別活動

9月 敬老会
10月 3世代レク
11月 家族新聞づくり

学校行事

9月 運動会
11月 創立記念集会
11月 教育相談

4 本時の指導

(1) ねらい

我が子を思う母親の愛情の深さに気づき、家族の一員としての自覚を新たにするとともに、進んで家族のために役立とうとする心情を育てる。

(2) 準備・資料

- ・事前アンケートの集計結果
- ・場面絵
- ・読み物資料
- ・ワークシート
- ・家庭科ノート
- ・心のノート
- ・BGM用CD

(3) 展開

(◎研究主題に迫るために)

段階	主な活動	予想される児童の反応	支援の手立て
であう と ら え る み つ め る 広 げる	1 事前アンケートの結果を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの人が、家族が好きだと答えている。 ・家族のために何かを心がけている人は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果をもとに、ねらいとする価値への方向づけを図る。
	2 資料「お磯下り」を読んで話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ・情景が理解しやすいよう、場面絵を用いる。
		<p>① 弟とけんかして、「お母さんなんか大きい。」といったとき、私はどんな気持ちだったでしょう。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・どうしていつも、自分ばかりが叱られるのか。 ・どうせ自分なんかかわいくないんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・切り返しの発問で叱られたときの自分の気持ちを想起させ、主人公である「私」の気持ちに共感させていく。
		<p>② 宮司さんの話を聞き、私が「はっ」としたのはどうしてでしょう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えを記入する。 ・自分の考えをグループ内で話し合い、全体で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんも私のために、苦労してこのお祭りに参加してくれていたことを知ったから。 ・私だって大切にされているということを感じたから。 ・お母さんの本当の気持ちも知らないで、私は何てひどいことを言ってしまったんだろうと後悔したから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記すことにより、自分の考えを確立し、話し合いを活性化させて多様な考えを引き出す。
		<p>③ 急いで家路についた私は、頭の中でどんなことを考えていたでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんも私のために、苦労してこのお祭りに参加してくれていたことを知ったから。 ・私だって大切にされているということを感じたから。 ・お母さんの本当の気持ちも知らないで、私は何てひどいことを言ってしまったんだろうと後悔したから。
	<ul style="list-style-type: none"> 3 家庭科ノートを使って家族の役割について学習したこと振り返り、これから家庭生活の中で自分の目指す姿を考える。 ・ワークシートに記入し発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早くお母さんに謝りたい。 ・これからは弟とも仲良くしよう。 ・お母さんの手伝いなどをして、家族を助けよう。 ・お母さんが仕事をしているので、できる家事を手伝っている。これからも続けたい。 ・今まででは家族のために何かを進んでしたことはなかったけど、これからは少しでも役に立てるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちだけにとどまらず、その気持ちがどんな行動に結びつくかを、補助発問や切り返しの発問によって気づかせ、ねらいとする価値に迫る。 ・あらかじめワークシートに各自の事前アンケートを添付し、学習前と後の自分の考えの変化が分かるようにする。 ・事前アンケートの結果から意図的に指名し、意欲づけを図る。 <p>(評)親への感謝の気持ちをもち、家族の一員として自分の役割を進んで果たしていくとする心情が高まったか。(ワークシート・発表)</p>
	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・かつて家族が交代で日記をつけていて、その日記が家族の絆を深めた話を紹介し、余韻をもって終わる。

5 事後の指導

心のノートの家族新聞づくりを活用して、自分自身と家族とのかかわりを見つめ直すとともに、家族の一員としての役割について考え、実践への足がかりとする。